

1. 平成30年度水質概要

「平成30年度水質検査計画」の「3. 水質管理上留意すべき事項」に記載している事項を中心に水質概要を示す。なお、平成30年度の検査結果は、すべての浄水及び給水栓水において水質基準に適合していた。

1. 1 消毒副生成物について

主要3浄水場（古国府浄水場、えのくま浄水場、横尾浄水場）において、原水水質の悪化や水温の上昇等を原因として、消毒副生成物の濃度が上昇する時期があったが、原水水質の状況、浄水及び給水栓水の消毒副生成物濃度等をきめ細かく把握し、浄水場での粉末活性炭注入、塩素注入の適正化等の対策を講じることで、消毒副生成物の低減化を図った。

1. 2 異臭味について

11月上旬に、古国府浄水場及びえのくま浄水場の原水である大分川上流域に位置する芹川ダムにおいてかび臭物質産生生物の *Phormidium tenue* が増殖したことに起因して、かび臭物質である 2-メチルイソボルネオールが高濃度化した。高濃度のかび臭物質を含有した原水を浄水処理する過程において、粉末活性炭注入率を増量するとともに、高品質粉末活性炭の使用及び粉末活性炭を含有した汚泥の返送を行うことにより浄水におけるかび臭物質の低減化を図った。